

質問	回答
鶴川駅北口・南口について、高齢者や視覚障がい者にどのような配慮がされているのか伺いたい。	南北自由通路、北口及び南口交通広場において、エレベーターや視覚障がい者用誘導ブロック等の設置を計画しています。
鶴川駅北口・南口の駐輪場と駐車場の計画について伺いたい。	北口は小田急電鉄の方で駅前広場の東側に検討しています。南口は各施設整備の中で確保する形になります。
鶴川駅南口のまちづくりのイメージを伺いたい。	中低層の建築物による日常の買い物などができる街をイメージしています。これを実現するため、南口は用途地域を第一種低層住居専用地域から近隣商業地域に変更し、容積率も200%と300%にしました。また、地区計画で近隣商業地域においては建築可能となるパチンコ店や場外馬券場も規制しました。
川井田人道橋の架け替え工事中の対応を伺いたい。	工事期間中は、橋を半分ずつ工事する工法や仮設の橋を架けるなどして、工事期間中の歩行者動線を確保するように考えています。
鶴川駅北口のエレベーターの設置位置を伺いたい。	南北自由通路と道路を横断するデッキとの境界に1か所、デッキを渡った先に1か所の合計2箇所設置します。
鶴川駅北口からバス乗り場まで傘をささずに行けるのか伺います。また、バス待ちしている人を考慮した屋根の幅になっているか伺います。	北口からバス乗り場までの歩道上に屋根を設置します。屋根の幅は2.7～4.8mとなっており、バス待ちの方がいた場合でも歩行者が濡れないように考慮しました。
鶴川駅北口交通広場のバスの流入経路について、現計画では渋滞が予想されるのではないかと。現計画の考え方を伺いたい。	北口交通広場の面積が現在の約4,000㎡から約8,200㎡と広くなり、現在鶴川街道で乗降しているバスも北口交通広場内に入れることで、鶴川街道の渋滞緩和が図れるものと考えています。また、北口交通広場へバスが入る位置を鶴川駅東口交差点から西側へ極力遠ざけ滞留長を長く取ることで、交通負荷軽減を図ります。岡上方面からのバスを全て新設する南口交通広場に乗り入れさせることで、北口交通広場への負荷軽減を図ります。
1号踏切の将来的な撤去の可能性について伺いたい。	踏切をなくすには、鉄道を高架化もしくは地下化するしかなく、鉄道の高架化は道路事業の一環であるため自治体からの要望に基づき実施するのが一般的です。小田急電鉄としては踏切がない方が安全性は高くなるため、自治体からの要請があれば協議に応じる考えです。
鶴川駅南口の臨時改札が残せない理由を伺いたい。	今回のまちづくりは、新たな自由通路と駅から安全で便利な歩行者ネットワークの形成を目指しています。南口臨時改札を残した場合、改札から直接歩道のない道路へ出る事になったり、踏切付近で人溜まりの発生等により歩行者の安全性確保が図れません。また、駅南側でのまちづくりにおいて、土地評価が変わることにより、狭小な宅地を生み出し、土地利用の可能性を狭め、賑わい形成へ影響することなどを総合的に考えた結果となります。
鶴川駅改良工事について、自動改札機の将来計画台数が7機で足りるのか伺いたい。	駅の乗降人員をふまえた中で、必要機器数を算出し、改札機数の適正化を図っています。